

令和5年度 東京都立田園調布高等学校 学校経営報告

5年度の経営目標	実施内容等
1 学校経営・組織体制	新型コロナウイルス感染が第5類に移行したことにより、感染前の状況にほぼ戻ったが、感染防止に心掛けながら、体育祭、文化祭、合唱祭の三大学校行事を開催することができた。部活動も活発に行うことができた。 ① 罹患者は生徒だけでなく、教職員にも発生したが、感染症対策を十分に取り、校内で濃厚接触と指定される事例はほとんどなかった。 ② 研究紀要を引き続き、3年連続で発行することができた。 ③ 服務事故が発生したことには重く受け止めなければならない。事故後、事故防止のための研修と再発防止策を講じた。
2 学習指導	第三期・進学指導研究校、理数研究校、英語教育研究推進校の指定を受け、学習指導力、授業力の向上に組織的・計画的に取り組むと共に、新学習指導要領の実施に向けての観点別評価を取り入れた授業評価を行うことができた。 ① 定期テスト、課題テストは全て共通問題とすることができた。定期考査採点分析システムを活用し、採点を行う教科・科目が増えた。定期考査結果を入力し、小問ごとの分析を行う教科があり、他教科にも広まっている。 ② 生徒による授業評価を年間2回実施し、評価結果を授業改善に生かした。 ③ 外部模試分析会の実施を通して、学習指導の成果検証を行った。CompassやFineシステムの利活用研修会を行い、担任、教科担当からエビデンスに基づいた指導助言を生徒に行うことができるようになってきている。 ④ 夏季休業日中の講習、土曜講習、大学入学共通テスト直前講習を計画的に実施し、大学入試を意識し学力向上を図った。 ⑤ 外部組織「フォーラム21」等の協力をいただき、総合的な探究の時間の充実を図ることができた。 ⑥ 人間と社会では、地域や大学と連携しコース別探学習に取組み、11コースに分かれたフィールドワーク体験を実施した。 ⑦ 総合的な探究の時間では、2学年全員が2学期末にポスターセッションによる発表、3学期末に代表者によるプレゼンテーションを行った。また、その取組み東京都の探究フォーラムで実践発表をした。 ⑧ スタディディサポートを全員に導入し、個別最適化の学習指導の研究を行った。各教科で復習での活用を増やすことができた。 ⑨ 理数研究校として、東京サイエンスフェアで発表するなどの取組ができた。
3 生活指導	年間を通して組織的に生活指導に取り組むことができた。 ① 教育相談委員会及びいじめ防止委員会を毎月開催し生徒の状況の把握を、スクールカウンセラーを交えて実施した。また、年間3回のいじめ調査により、生徒の状況把握を的確に行うことができた。 ② 専門医派遣事業の取組として、精神科医による心の健康教室、スクールカウンセラーによる講演会等を開催し、心身の健康の保持増進に努めた。 ③ 1年生を対象としたSNSの適切な利用及び薬物乱用防止講座を、所轄警察署と連携し実施した。 ④ 年間3回の避難訓練に加え、学校防災拠点訓練（地域と連携した防災訓練及び避難所設営・運営訓練）に1年生全員が参加し実施することができた。また、嶺町地区学校防災活動拠点本部と連携し、「地域の防火防災功労賞優秀賞」を東京消防庁より授与された。 ⑤ 年間を通した遅刻指導を継続し生活習慣の確立ができた。 ⑥ 教職員を対象とした校内研修を年間3回実施し、人権尊重の精神及びコンプラ

	イアンスの徹底を図るとともに、体罰・暴言等の防止に向けた意識啓発に努めた。	
4 進路指導	「田高進路プロジェクト」に基づき、進路指導部、学年、教科が協力し、進路指導を計画的に実施することができた。 ① 第三期・進学指導研究校への訪問指導では、模試分析会について高い評価をいただいた。各教科が分析し今後の対応を検討する方式を継続するとともに、生徒への指導の結果を追跡調査・分析まで行えるよう準備できた。 ② 進路指導部を中心にアドバンストクラスの指導法を取りまとめた。 ③ 予備校の講師を招き3年生には10月に2年生には2月に進学情報を提供することができた。 ④ 1、2年生対象に大学出張講義を企画し、14大学の協力を得て実施することができた。 ⑤ 模擬試験の学校としての実施について進路指導部が各学年の意見を取りまとめ、次年度以降の継続的な実施を決定することができた。 ⑥ 夏季集中型学力向上講習(1・2年生)、3学年の夏期講習等を進路指導部がとりまとめ、各教科と連携して効果的な学習指導を行うことができた。 ⑦ 保護者会等での進路情報の提供を行うことができた。進路だより等による情報提供の充実は今後の課題である。	
5 特別活動、部活動	新型コロナウイルス感染前とほぼ近い形で活動を行うことができた。 ① 部活動についてはガイドラインに従い活動を行うことができた。宿泊を伴う活動は6団体実施することができた。 ② 体育祭、文化祭、合唱祭は、予定どおり実施することができた。 ③ ビブリオバトルを12月に実施し、読書活動を推進するとともに、表現力やプレゼンテーション能力の向上に努めた。 ④ 生徒会役員と校長との座談会を開催することができた。今後、継続的な開催が必要である。また、生徒会役員と同窓会との座談会を開催することができた。	
6 募集・広報活動	推薦入試、前期入試、後期入試共に例年より倍率が減少したが、都立高校全体の応募者が減少する中、入学希望者を確保できた。学校見学会の参加者数は、昨年度とほぼ同数であった。 ① ホームページの年間更新回数は224回(R3:210回)を超え、情報発信ができた。 ② 近隣の中学校に加え、進学指導塾400校近くに学校案内を送付した。さらに、夏期休業中に校長が290校の進学指導塾を訪問して、本校のPR活動を行った。 ③ 中学校への学校説明会にも参加し、田園調布高校と中学校をオンラインでつなげるなど、様々な工夫を行いPRに務めた。	
令和5年度の主な学校説明会等の来校者数		
(1)第1回学校見学会(7.21)……1180名/R4:650名 (2)第2回学校見学会(7.25)…1160名/R4:実施なし (3)第3回学校見学会(8.19)……1164名/R4:635名 (4)城南地区合同説明会(10.1) …50名/R4:348名 (5)第1回学校説明会(10.28)……626名/R4:690名 (6)都立高校等合同説明会(10.29)…135名/R4:148名 (7)第2回学校説明会(11.25)……505名/R4:480名 (8)第3回学校説明会(1.6)……………138名/R3:178名 (9)第4回学校説明会(3.2)……………19名/R4:42名		
令和5年度の数値目標		
① 大学現役合格者数 ・国公立大 10名以上 ・難関私大(早慶上理) 10名以上 ・私大(GMARCH) 60名以上	① 大学現役合格者数 ・国公立大 2名(R4:8名) ・難関私大(早慶上理) 10名(R4:4名) ・私大(GMARCH) 63名(R4:58名)	
② 生徒による授業評価における学習指導「指導方法、指導内容の工夫」について、肯定的評価 90%以上	② 肯定的評価 78%(R4:83%)	
③ 生徒の授業以外の学習時間の目安を1年生2時間、2年生3時間、3年生4時間として、各	③ 達成率 (1年生:15.5%, 2年生:3.0%, 3年生:24.5%)	

学年の達成目標 30%以上 ④ 12月時点での1・2年生の部活動加入率 80% ⑤ 入学者選抜応募倍率を、 ・推薦 3.2倍以上 ・分割前期 2.0倍以上 とする。 ⑥ 東京都体力・運動能力調査の体力合計点の平均値を、東京都平均以上とする。	⑥ 12月時点での1・2年生の部活動加入率 72.5% ⑤ 入学者選抜応募倍率 ・推薦 2.50倍(R4:3.28倍) ・分割前期 1.87倍(R4:2.06倍) ・分割後期 1.25倍(R4:2.48倍) ⑤ 東京都体力・運動能力調査の体力合計点の平均値 ・男子 51.1(東京都平均 62.9) ・女子 50.6(東京都平均 54.2)
翌年度以降の課題と改善策	
○ 全日制普通科高校としての役割をしっかりと果たし、学校行事、学習活動、部活動等の教育活動を充実させ、生徒の学校満足度を向上する努力を行う。 ○ 教職員のライフワークバランスを考え、土曜授業実施による負荷の軽減（振休日を取れる時間割の作成）とともに、1曜日を定時退庁とする等、長時間勤務を減らすよう改善する。 ○ 観点別評価の実施、ICT機器を使った個別最適化された授業の実施。全ての教員による授業力向上のための取組を引き続き行う。 ○ 生徒に寄り添った生徒指導、専門機関と連携した生徒のメンタルヘルスケアの充実を通して、生命尊重の教育を実践する。 ○ 18歳成人を見据えた、規律ある学校生活の実践を行う。 ○ 第三期・進学指導研究校の指定を生かし他校の授業見学や、職員研修、模試分析からの進路指導を系統的に行う。学年担任だけでなく、全ての教科の教員がエビデンスに基づいた進路指導ができるように組織的な取り組みを行う。 ○ 学校行事、部活動を生徒主体で実施する。生徒自らが田園調布高校の学校行事、部活動を作り上げるという気持ちになるような指導を教職員から生徒へ促していく。 ○ 学校案内、Webページの充実はもちろん、PR活動をできる限り行い、応募倍率を向上させる。また、後期募集での応募人数確保のための戦略も今後検討する。 ○ 教職員が田園調布高校を愛し、生徒一人一人の声に真摯に耳を傾け、心のこもった温かい指導を充実させることが必要である。生徒が教員の指示を待つのではなく自分で考えることができるように指導し、さらに、教員は上司からの指示待ちになるのではなく、自らが学校経営に参画する提案を教職員から出していく。 ○ 令和6年度も、年度末に一年間の取組をまとめた紀要を作成し、学校としての活動の記録をしっかりと残せるよう、管理職は生徒・教職員の意見を聞きながら、真摯に学校運営を行う。	